

道具操作編①

はさみがうまくつかえない子って



どんな時？こんな理由かな？

- 両手動作がうまく連動しない
- ▲はさみを向ける方向がわかりにくい
- 目で切るところを注目したり、目で切る方向を誘導できていない

こんな支援が助かります！

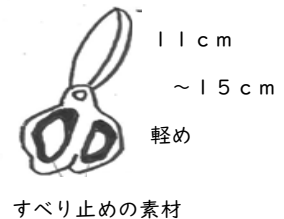
まずは、使いやすい道具や設定を提供しましょう。

- ・柔らかい紙ではなく、張りのある紙を使う。(広告用紙等)
- ・切れのよいはさみを使う。抵抗がなくても切れるはさみを使う。
- ・手にあったサイズのはさみを使う。

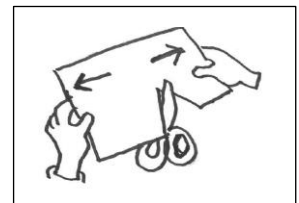
(例 小さなはさみを使う。11センチから15センチくらい)

- ・穴の大きさの違うはさみを使う。(滑り止めが付いてる方がよい)

- ピストルのポーズが取れるか確認しましょう。はさみを使う時には親指が上に向くように、はさみに目印をつけて意識しやすくなるように。
- ▲線を太くしたり、切り目を入れたり、紙側に補助を足してみましょう。
- 声かけを少なく、紙を押さえる部分は大人が手伝ってあげたり、紙を両側から引っ張り、紙に張りをつくってあげる。



ピストルのポーズ



考え方のヒント

はさみの苦手なお子さんには、練習や無理をさせるのではなく、今の力で使いやすいグッズや設定選択から取り組みましょう。

上手に切れることよりも、はさみを使うことや切ることが「楽しい」「嫌にならない」が優先です。

お子さんの手の動きの発達段階と、使うはさみや課題があっているか確認してみましょう。

参照：「参考資料 手の発達と使いやすいはさみの例」

姿勢も確認しましょう。姿勢の崩れのために手の使い方が難しくなる場合があります。

参照：「姿勢・運動編 姿勢が崩れてしまう子って」の考え方のヒント